

B6. 学修意欲を向上させ学生が運営する混住型学生寮

会津大学 創明寮



南東側外観



内観（オープンリビング）

外国人留学生も一緒に住むユニット形式の混住型学生寮。寮生の社会性や国際的感覚等を培う教育施設として整備。

■教育施設としての学生寮

会津大学中期目標（H18年度～H23年度）で定められた「優れた入学者の確保に戦略的に取り組む」及び中期計画で定められた「入学志願者からの要望が強い学生が安心して生活しながら学べる学生寮を整備する」を実現するために、①共同生活による学生の社会性の向上、②留学生との共同生活による国際的感覚の醸成、③修学・生活支援による修学意欲の向上、④外国人留学生増強への対応を目的とした学生寮を整備した。

本学生寮は、日本全国や世界各国から集まった学生たちの共同生活や施設の共同利用等を通して、社会性や協調性を身に付けさせるとともに、修学意欲を向上させ、円滑な学生生活を支援することを目的としているものであり、会津大学の教育施設の一つとして整備したものである。

■計画の決定

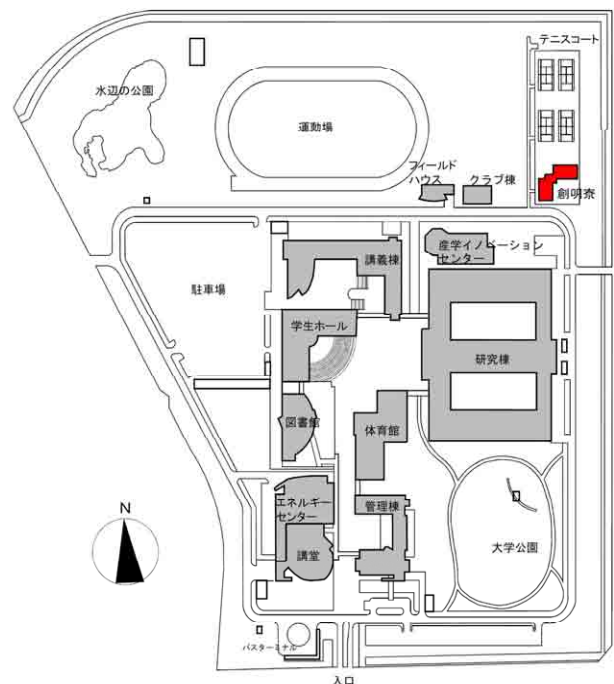
事業を実現するため、学生課学生支援係（運営部分）と総務予算課施設係（施設部分）でワーキンググループを立ち上げ、企画立案から基本設計、実施設計、施工まで内容検討を実施し、大学の意思決定機関である部局長会議で最終決定した。

なお、事業の目的を達成するために、大学構内に設置することが最善であり、入居する学生が生活しやすいよう、講義棟や研究棟、学生食堂等学生が利用する構内施設に近い位置（テニスコートの一部）に建設することとなった。また、ハード・ソフト両面において、既存施設との一体性、連携性が重要である一方で、大学施設とは切り離れた居住スペースの静謐（せいひつ）性や学生がリラックスできるアットホームな雰囲気作りが重要であることから、建物外部からの個室のプライバシー確保に有利となるよう、住棟を南東方向に開くL型プランとしている。

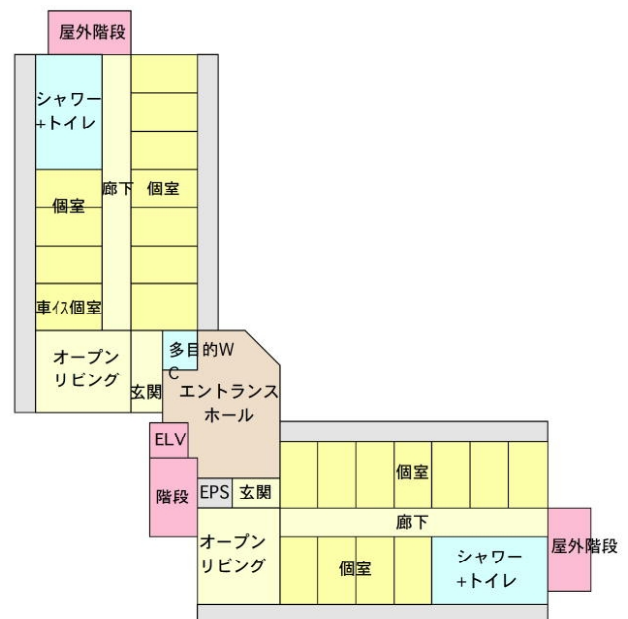
■交流の促進

○大学建学時のコンセプト

会津大学の建学当初のコンセプトである「単体の建築を超えて、「部屋」－「建築」－「両側町」－「都市葉」という普遍的な都市の成り立ちに基づいてヒエラルキカルなグルーピングと統合を繰り返していくことによって、キャンパス全体が「活



施設配置図



基準階平面図

気ある小さな都市」となるように構成されること」の具現化を図る必要があった。

○創明寮の空間構成

平面計画は、「個室」－「オープンリビング」－「エントランスホール」とコミュニティのヒエラルキカルな拡大が図られるように考慮した。さらに、「オープンリビング」－「キャンパス各所のコミュニティスペース」へ有効に連続していく形態とした。

各ユニット玄関から入ると、必ずオープンリビングを経由して各個室に至る形態となっており、オープンリビングがユニット単位のコミュニティ形成の場として十分機能するよう配置した。また、エントランスホールは全体の共用スペースとして、ユニット間の連絡や交流に有効に機能する空間となっている。

■快適性・利便性への配慮

○創明寮レジデントアシスタント(SRA)の配置

創明寮の運営については入居者の自主性に任せており、家事業務の分担・当番制も、実際に入居する学生が工夫しながらうまく機能させている。また、各ユニットにレジデントアシスタントとして1名の上級生を配置することで、入居者の修学及び生活の指導・助言を行うことにより、入居者が安心して生活し、円滑な学生生活を送る支援が可能となっている。留学生が混住する施設であることから、英語が話せない入居者と日本語が話せない留学生の意思疎通の手助けも行い、異文化交流の場でトラブルが起きないように手助けをしている。SRAの居室は、オープンリビングに一番近い居室に配置し、入居学生へ目の届きやすい配置となっている。

入居者及びSRAは定期的にミーティングを開催することで、より良い寮運営のための討議を行うとともに、他のユニットの活動状況について意見交換し、必要事項を大学へ報告している。

○教育的機能

学内に建築することにより、教員の目が届き、「学生を一人にさせない(引きこもらせない)」よう、学部生の修学支援を日常的に行っている修学支援室と連携しながら、学生の修学意欲の醸成を図るようにした。

○外国人留学生への支援機能

学内に建築することにより、外国人留学生は日本語に不慣れな者が多く、英語による授業を行っている本学ではその傾向が強いことから、不測の事態が起こった場合等、大学の通訳員による英会話での支援を受けることができるようにした。

○車いす利用者への配慮

各階1ユニットに車いす対応室を設置した。車いす利用者が想定されるユニットの移動空間、トイレ、シャワー室等は全て段差をなくし、建具も大きめで利用しやすい引き戸としている。

○各個室からの景観

最高高さを極力抑え、南東方向に開くL型プランとしているので、各個室からは敷地外周の樹木、既存街路樹(ポプラ)や新規の緩衝樹などが目に入り、自然の風景を見ることができる。

○学内施設(研究棟)との連携

研究棟の近くに建築することにより、寮生の利便性の向上を図った。研究棟はアトリウムを中心として研究室、実験室及び大学院講義室等の各室が配置されている。アトリウムは3層吹き抜けの豊かな空間とし、研究者に「ゆとり」を与え、みんなが集まり、研究者同士の自由なコミュニケーションが可能な想像空間となっている。また、研究の合間に気分・身体をリフレッシュさせるための軽運動のできる空間(SRLU)を研究棟の内部に設け、わざわざ体育館まで出向くことなく気分・身体をリフレッシュしたり、修学支援室や24時間利用できるコンピューター演習室を設置することにより、学生の修学意欲を向上させたり、充実した学生生活に寄与している。



オープンリビング



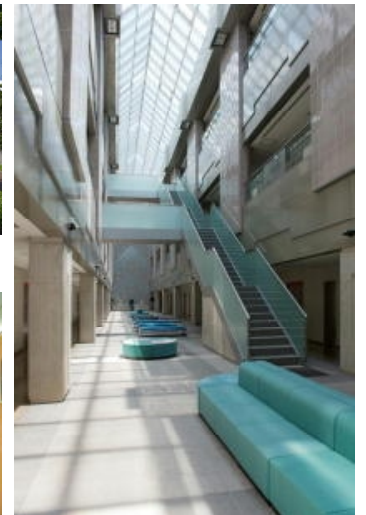
個室



段差がないシャワー室



西側外観(研究棟)



アトリウム(研究棟)



SRLU(研究棟)

(Study and Research Life Unit)



修学支援室(研究棟)



コンピューター演習室(研究棟)

B7. 居ながらにして各国の生活と文化を体験できる施設

神田外語大学 7号館



7号館全景（手前6号館）



北側外観

特徴的な外観とガラスを多用し、お互いを触発し合う環境の7号館は、ラーニング・commonsを取り入れた図書館や外国の環境を再現した疑似留学体験空間を整備。

■新たな学習と交流の拠点整備

図書館を中心とした複合施設として計画された。隣接する英語学習支援施設の6号館とともに、これからの大学図書館像と言われる「ラーニング・commons」として注目されている。6号館が英語であるのに対し、7号館は多言語のサポートサービスを加えた学習施設であり、多言語空間エリアとしてのMULC (Multilingual Communication Center) と新図書館、更にセミナールームやホール、カフェなどを備え、新たな学習と交流拠点として整備した。また、施設の複合化を生かし、「環境、空間、人の活動」が見えることで学生の学習意欲を向上させたいと考え、各施設のつながりとアクティビティを高める連携性を重視した。

外観は、キャンパスの一番奥に位置することで回遊性に配慮し、人を誘うガラスによる曲線のデザインとし、ラグビーコートから芝生を連続させ、丘（共生屋根）を登り自由に利用できる緑の環境整備を施し、キャンパスの連携とアクティビティの向上に努めている。

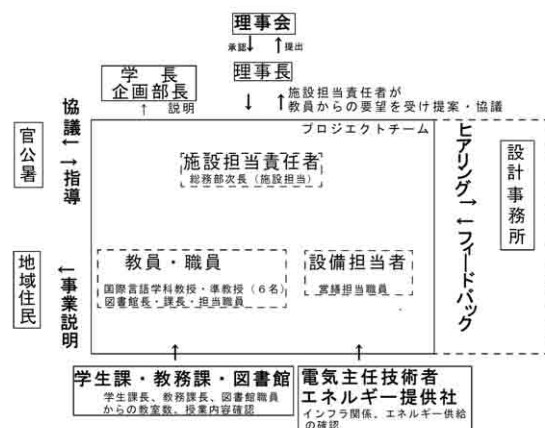
■事業の推進プロセス

○企画・立案

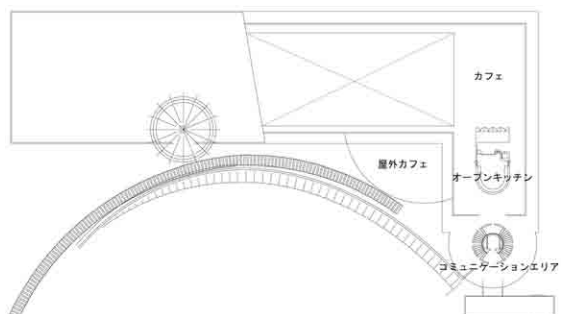
6号館の2階には英語に特化した施設が整備されており、英語以外7言語の科目を教える神田外語大学としてもこれらの環境を整備するのを感じた。また、全国七つの外国語大学において図書館を持たない大学は神田外語大学のみであることから、7号館で学生が1日学生生活を過ごすことのできるラーニング・commonsとしての環境構築を目指し、図書館、各国のラウンジとセミナールーム、カフェを持つ複合施設の整備事業が理事会に提案され、承認された。

○推進体制

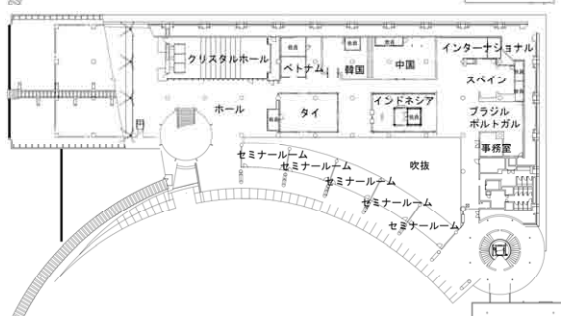
本事業の推進には、委員会の設置及び外部の専門家の参加を仰ぎ検討会を実施した。MULCにおいては、本物の吹き抜け空間（日本建築のあずまや）の構築をテーマに、七つの国（タイ・ベトナム・インドネシア・中国・韓国・ブラジル・スペイン）へ理事長、関係教授、設計者と設定した空間に納まる、モチー



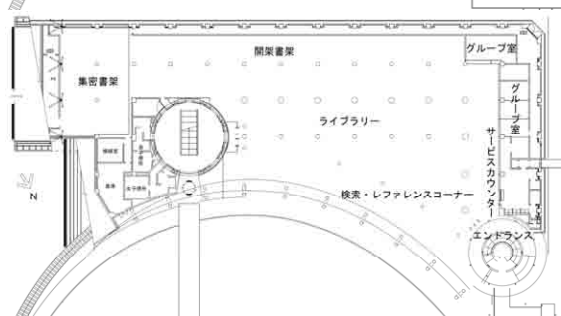
推進体制図



3階平面図



2階平面図



1階平面図

フ探しをすべく海外出張を重ねた。

このモチーフ探しでは、それぞれの国の施工者、設計者と日本での施工の可否、費用の調整を図った。タイにおいては、大使及び王宮の設計者の協力を得ることもできた。

家具については、学習スタイルに合わせて学生が選択できるように、多彩なスタイルとデザインを展開しているが、大学と設計者がデザインを行い製作させている。また、イタリアの家具展覧会に赴き、家具デザイナー、メーカーと直接交渉を行い買い付けした。建物を無機質に仕上げ、家具で色を付けることを設計手法とし、用途により、色・座の感触を確認し選定した。

■見る、見られる環境

内外が一体となった空間造り、ガラス張りによる、見る見られる教室環境が神田外語大学の教育環境造りのトータルコンセプトである。7号館では、吹き抜けを囲んで図書館と多言語空間、セミナールームを対峙（たいじ）させ、座学と体験学習が一体となる学習環境が実現した。

○図書館

建物全体をラーニング・コモンズと位置付けた7号館の1階の図書館も、ガラス張りの空間造りにより内外が一体となっており、開架書架を壁側に配列し、静かな個の空間から開かれた寛（くつろ）げる空間へと学習空間が構成されている。寛（くつろ）げる空間からは、外部空間との一体感を抱くことができる。

○「その国らしさ」で疑似留学を体験できる多言語空間

2階のMULCでは、各国の多種多様な生活様式や建築様式の中から、「その国らしさ」を抽出し再現した。博物館等の学習施設の展示のような、地域的、歴史的な視点に立った学術的意義を求めるのではなく、それぞれの国の特徴的な修景・生活シーンを環境再現し、文化や生活などの個性を体験できる疑似留学空間として展開した。各国の言語が飛び交い、その国の生活や雰囲気を感じられる、親しみやすく、賑（にぎ）わいあふれる空間とした。

MULCは、多くの留学生と日本の学生がそれぞれの国のブースで交流を図ることができかつその国の文化を感じとることのできる空間となっている。この空間には、ハードな間仕切りはなく、七か国の言語が飛び交う空間となっている。

■使って実感できるサステイナブルデザイン

学び舎（や）として、使って実感できるサステイナブルデザインとした。屋根は、地上から丘状に芝生を連続させ、遮熱性能の向上と緑の美しさ、気化熱による涼しさ等を体験できる屋上緑化とした。外壁は、日射や断熱の配慮とともに、景色や自然採光を享受できるように、北東側にLow-Eペアガラスのガラスカーテンウォールとし、床には温かみのある木質デザインを低廉で実現するために、青森産カラマツの間伐材を採用した。

照明と空調は、省エネルギーと可変性や居住性の両立に配慮し、タスク&アンビエント照明と床吹き出し空調を採用した。この空調ダクトには、環境負荷の小さいダンボールダクトを採用した。さらに、外気導入用クール&ヒートチューブ、安価な夜間電力を利用した氷蓄熱空調、ガラスコーンからの自然換気システム、屋上緑化やトイレ洗浄水、ガラス面への散水に井水利用を採用した。

■快適で記憶に残るキャンパス

疑似体験空間と緑の丘、おしゃれなカフェ、多くの学生が集うシンボリックな7号館は学生でにぎわうばかりでなく、映画やTVのドラマ撮影に使用されている。キャンパス見学会、入試説明会においては、重要な見学コースとなっており、入学志願者の大幅増等を始め、大学の名を広く世に知らしめている。



1階検索・レファレンスコーナー



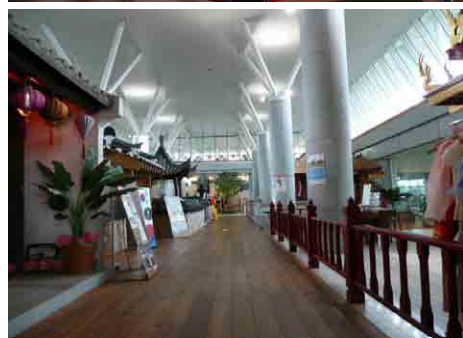
1階ライブラリー



2階クリスタルホール



2階セミナールーム
1階ライブラリー



2階MULC



3階カフェ

B8. 交流を促す4名室ユニットをもつ900名の国際学生寮

早稲田大学 中野国際コミュニティプラザ



西側外観



プロムナード

東京中野にオープンした国際学生寮。寮室は全室個室でプライバシーを確保。4名1ユニットで共に学び共に生活する。安全・環境にも配慮。

■グローバルリーダーの育成と地域連携の促進

アジアのリーディングユニバーシティとして確固たる地位を築くための中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、創立150周年を迎える2032年における本学のあるべき姿の実現に向けた様々な取り組みを進めている。とりわけ、次の時代を牽引（けんいん）していく優れた人材の育成と地域社会との連携は大学に求められている重要な使命であり、本施設はその中心的な役割を担う。

○900名の国内学生と留学生からなる大規模国際学生寮

2階から11階に整備される国際学生寮「WISH」の整備は、東日本最大級の規模をもつ大規模国際学生寮を中野駅北口という、大学へのアクセスのよい都心部に新設するという企画である。早稲田大学は文部科学省による「グローバル30」採択校であり、本施設は学内で定めている「留学生8,000人計画」推進においても基幹となる施設である。

寮独自のディスカッションを中心としたグループワークやファカルティビジットなどのプログラムからなる「SI(Social Intelligence)プログラム」を寮生に対して実施する。国内学生と留学生が共に学び共に生活することで相互理解を深めると同時に、社会で必要となる能力を磨くことにより、国際社会がもつめるグローバルリーダーの育成を行う。

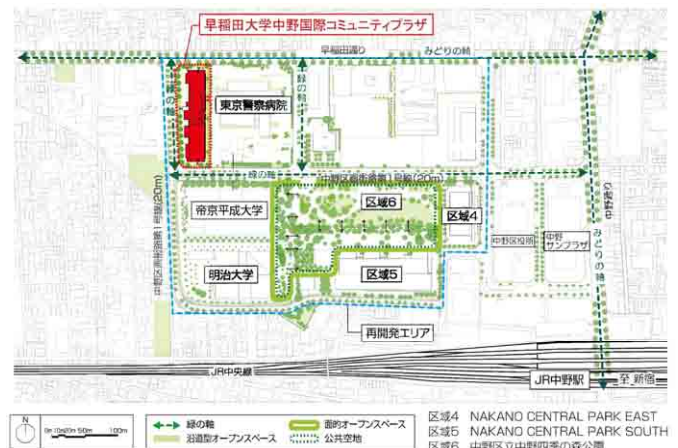
○地域交流・連携の拠点

1階には、地域社会に開かれた生涯学習の場づくりを提供する教育施設として早稲田校、八丁堀校に続く第3の拠点となる「早稲田大学エクステンションセンター中野校」が開設されている。従来展開してきた文学、ビジネス、語学、芸術、健康などの講座に加え、中野という地域に根差した特長を活かした中野校ならではの多彩なプログラムを実施し、幅広い年齢層に対して早稲田の知の財産を提供する。

■再開発エリアにおける整備

○教育エリアを構成

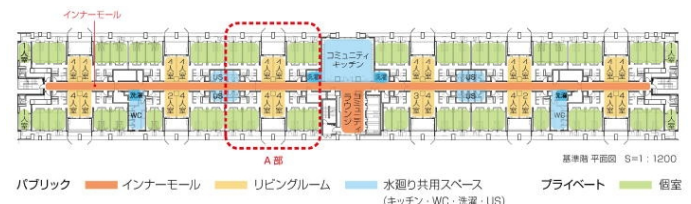
「再開発等促進区を定める地区計画」制度を利用して、緑化率40%の確保及び容積割増しの適用を行っている。中野駅北口再開発エリアの中では、近接する帝京平成大学、明治大学とともに教育エリアを構成する。



再開発エリア全体の緑のネットワーク図



1階平面図



基準階平面図



基本ユニット図

環境配慮断面イメージ図

■パブリックとプライベートが融合した空間

○共に学び、共に生活する場

2階には寮生の共用施設として、創造的課題解決力やコミュニケーション力などを養うことを目的としたSIプログラムが実施される多目的教室のほか、音楽室やフィットネスルーム・ラウンジ・浴室など、寮生同士が交流を図ることのできる場が提供されている(2階の一部は寮室スペース)。

また、ハウスマスター(寮長・寮母)やレジデンスセンタースタッフの運営事務室も設置され、快適で安全な寮生活をサポートしている。

○活発な交流を促す1フロア100名のコミュニティ

3階から11階には寮室スペースが並び、3階から7階が男子専用、8階から11階が女子専用フロアとなる。

学生寮基準階は、中廊下である「インナーモール」を中心に、水廻(まわり)共用施設(キッチン、WC、シャワー、ランドリー)を寮室ユニットの外にあえて設置することで、活発な交流を促すコミュニティを形成する。

なお、学生寮基準階平面の端部にRA(Resident Assistant)の部屋を配置し、教育の場としての寮運営をサポートする体制を設定している。

○寮室リビング間に「見る・見られる」関係を構築

寮室は原則4名1ユニットとなり、各ユニットには個室と4名で利用するリビングが用意され、プライベートを保ちつつグローバルなネットワークを築くことができる。

また、各ユニットは、リビングルームのインナーモールに面する側(がわ)をガラス張りとして、そこを通る学生には、各ユニットのリビングルームが目に入る。対面する各ユニット間に、「見る・見られる」の関係が生まれる形にした。

■地域交流・連携の拠点となる「コミュニティ・コモン」

1階の生涯学習施設は、内部の活動が外からも見えるよう妻面をガラス張りにしたホール、大・中教室を街に向けて並べた。その教室と教室の間の交流ラウンジと、隣接する外部の交流デッキからなる場を、コミュニティ・コモンと位置づけた。コミュニティ・コモン及び教室での活動を通じ、地域・社会連携の促進及びにぎわいの創出を行う。

また、1階には、イートインスペースが充実したコンビニエンスストアが設置されている。

■中間免震層による高い対地震安全性の実現

中間免震層を設置し、安全安心な国際学生寮を実現する。

1、2階の間に必要な設備階を中間免震層とすることで、土工事及び地下く体工事の削減及び工期短縮を図った。

また、中間免震層の外壁において免震装置を見せることで、安全安心を周囲にアピールするデザインとしている。

■環境配慮型建築

○省CO2を実践する環境配慮型建築

環境配慮技術として、長寿命、リサイクル、電力削減、見える化をテーマとしている。長寿命化として、アウトフレームによる日射遮蔽や自然採光、自然通風などのパッシブ手法により、建物の基本性能を高めている。

また、リサイクル技術の一つとして、「生物処理による排水再利用」を行っている。

○片側開口居室自然通風システムの実現

環境に配慮した建物として国土交通省が実施する「住宅・建築物省CO2先導事業(平成23年度 第2回)」に採択された事業である。中でも、「整流フィン」による自然通風システムが特長である。



1階エントランスホール



1階交流ラウンジ



2階メインラウンジ



2階フィットネスルーム



2階多目的教室



インナーモール



インナーモールに面したリビングルーム



コミュニティキッチン

B9. グローバルな対話が可能な複合型交流宿泊施設

国際基督教大学 東ヶ崎潔ダイアログハウス



北側外観



東側外観

リベラルアーツ教育を強化し、グローバルな対話(dialogue)が可能な教育環境を整えるため、武蔵野の恵まれた自然環境の中に、留学生寮、研究者寮、国際会議室、食堂等からなる複合施設を整備。

■国際化を推進する施設

国際教育に力を入れており、国際理解には対話(ダイアログ)が重要であることから計画した。キャンパスで最も高層の建物(高さ25m)であり、大学食堂の他、オフィス、国際会議室、短期留学生寮、研究者寮、教職員ラウンジなどを擁する複合施設である。

■環境への配慮

○キャンパスマスタープランに基づく整備

2004年にキャンパス・マスタープランで承認された事項(新築・改築案件及びその優先順位並びに既存施設の有効利用計画)に若干の軌道修正を加え、2009年2月の理事会にて建設費用及び建設計画概要の最終承認を得た。

建設計画を推進するに当たり、さらに、学内外から多くの意見を募り、「ICU環境宣言」にのっとり生物多様性を保持する観点から、開発ゾーンにおける慎重な調査を実施するとともに、希少植物等の保護策(移植等)を実施した。

○生活空間の高層化による再開発

建設に当たっては、「キャンパスの森と自然を守り、樹木の伐採を最低限に抑える」ことと「収容人数を増やした施設を建設し、外国人学生の一層の受入れを図る」という二つの命題を解決するため、「生活空間の高層化による再開発」というこの基本構想が考えられたが、この構想を具現化するため、米国での学校施設の設計に実績のある米国人建築家を招へいし、環境に十分配慮した構造を実現させた。

■施設の概要

○各オフィス

学生サービス向上の一つとして、1階には、「就職相談グループ」、「ハウジング・オフィス」がある。また、2階には、履修計画などの学びの側面から学生を支える「アカデミックプランニング・センター」、学生のメンタルヘルスをサポートする「カウンセリングセンター」が設置されている。



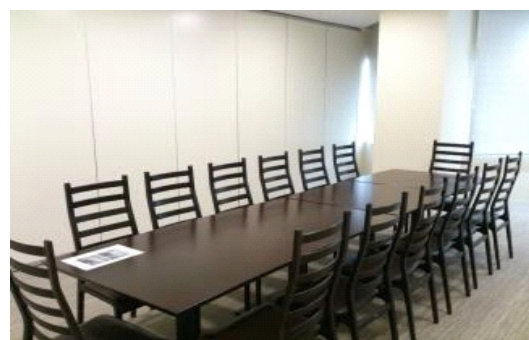
食堂側エントランス
(前面を木製ガラスカーテンウォールとし屋内外が連続する空間を創出)



アカデミック
プランニング
・センター



中会議室



小会議室

○会議室(2階)

小規模な国際会議等に対応可能な近代的設備を備えた施設である。

・ **中会議室 (収容人数32名)** : 国際会議室の画像及び音声と同時に視聴できる機能を敷設。パーティションにより部屋を2分割することが可能。

・ **小会議室 (収容人数24名)** : 旧大学食堂イーストルームにあったテーブルと椅子をリサイクルしている。

・ **国際会議室 (収容人数150名)** : 150インチ×2面スクリーンを設置。プロジェクターでは、異なる二つの画像を同時に映し出すことが可能。また、同時通訳ブースも設置され、常設で3か国語の同時通訳が可能。さらに、この国際会議室での画像と音声は中会議室で同時に視聴が可能。

○短期留学生寮(3・4階, 21部屋, 42名宿泊可能)

毎夏は短期の国際教育プログラムに参加している米国・カリフォルニア大学の学生が生活している。各居室は、共同生活を経験することによるメリットを考え対話を促すため、二人で使用することが原則となっている。居室内には、クローゼットと、学習机とベッドが各々に用意されている。さらに、冷蔵庫、オープンレンジ、エアコン、シャワーを完備している。併設する大学食堂で朝・昼・晩の食事をとることが可能である。

ランドリー室には、全自動洗濯機3台・乾燥機3台・アイロン1台が完備され、各階にあるラウンジには大型テレビとソファがあり、フロアを共有する学生の対話の空間となっている。

セキュリティ面では、認証されたカードキーを持たない限り、フロアにも部屋にも入れないシステムが採用されており安心して生活できるよう配慮されている。

また、バリアフリーの採用により、車椅子でも無理なく移動可能である。

○研究者寮(5・6階, 21部屋, 42名宿泊可能)

ICUのさらなる国際化のため短期滞在者の宿泊施設の増強と老朽化した研究者寮に代わるものとして、収容人数増と機能を高めた施設である。各居室には、冷蔵庫、オープンレンジ、エアコンを完備しているほか、研究者が長期滞在することを考慮して、キッチンスペースやバスが用意されている。

また、家族で来日する研究者を想定し、コネクティングルーム(内扉を開放すれば2部屋続き間として使用できる宿泊室)もある。

セキュリティ面では、短期留学生寮同様カードキーが採用されている。

○教職員ラウンジ(7階)

海外からのゲストも利用する教職員ラウンジは、富士山を展望しながらコミュニケーションが図れるよう最上階に設けた。

○大学食堂

新大学食堂は、座席数 420席。レストラン・カフェ・ラウンジの3ゾーンに分かれており、それぞれ趣の異なる食事・休憩スペースとなっている。

食堂は、「武蔵野の森の中で」をコンセプトに前面を木製ガラスカーテンウォールとし、屋内外が連続する空間とした。

さらに、旧大学食堂にあった暖炉をオマージュとして新大学食堂に移設した。この移設に当たっては、旧大学食堂解体時に保存されたパーツを忠実に再現したものになっており、在学生だけでなく卒業生にとっても落ち着ける場となっている。

○ロッカーエリア

学生用ロッカーは全てが一人用で、1,810名分が用意されている。使用対象は学部生(通学生限定)となっている。



国際会議室



短期留学生寮



研究者寮



教職員ラウンジ



大学食堂